

令和5年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和4年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 1. 安全安心で安定した効率的な処理体制の確保
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	A	

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・適切な業務の管理と継続的な改善を図ることを目的とした豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会を運営し、ごみ焼却施設及びリサイクルプラザにおける内部モニタリング結果を公表した。
- ・安全衛生委員会（書面開催を含む）を年間12回開催し、労働災害ゼロ職場に向けた取り組みを実施した。
- ・クリーンランドにおけるごみの総搬入量は、近年ではほぼ横ばいで推移していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業系のごみ搬入量が減少したことから、焼却ごみ搬入量が大きく減少した。しかし、増加していた家庭からのごみが令和3年度に減少へ転じたものの、依然として多い状況のため、今後の推移を注視するとともに、クリーンランドの見学者へごみ減量の啓発を行った。
- ・両市と連携してごみ搬入物検査を定期的実施することにより、産業廃棄物や分別が不十分なごみに対して搬入業者へ指導を強化するなど適正搬入に努めた。
- ・リサイクルプラザにおける安全性、環境性、経済性及び日常点検・整備などに関するモニタリングを継続し、効率的で高品質な再資源化の向上に取り組んだ。
- ・ごみ処理経費について、受益と負担の適正化を図る観点から、令和3年4月からごみ処理施設使用料の改定を行った。
- ・ごみピット内の攪拌によるごみ質の均一化を図ることにより安定したごみ焼却並びに最大限発電設備の能力を発揮した発電量の確保に努めた。
- ・日々の運転状況が適切に維持されているか運転管理部門と連携を密にし情報共有を図り、施設の安定稼働に欠かせない定期補修工事の着実な履行に努めた。
- ・ボイラー設備の故障により急遽3日間全ての焼却炉を停止し点検整備を行ったが、担当職員の適正な判断やプラントメーカーによる迅速な復旧対応により最小限の停止期間に抑えることができた。その後、年間を通した運転計画の適宜見直しにより、安定稼働が維持できた。

課題・今後の方向性

- ・豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会を運営し、適切な業務管理を図るとともに、一般廃棄物処理基本計画の進行管理を行う。
- ・安全衛生委員会を中心に労働災害ゼロ職場の達成に向けた取り組みを推進し、全職員の安全確保に努める。
- ・ごみ焼却施設においては、整備計画時に設定した計画量を上回るごみが搬入されていることから、余力を持って処理することが困難な状況であるため、引き続き両市と連携してごみの減量に取り組む。
- ・リサイクルプラザの破碎処理工程において、充電式電池やそれらを内蔵する小型家電製品などの混入が発火事象の主な要因となり、施設の損傷や処理計画への影響が懸念されるとともに、プラスチック製容器包装の搬出先施設でも同様の発火が発生していたため、豊中市において令和5年10月から新たに小型家電類及び電池類の分別収集が開始される予定であることから、受入れに向けた準備やその後の状況を確認していくとともに、引き続き両市と連携して拠点回収や分別強化などの対策を検討する。
- ・リサイクルプラザでは、整備計画時のごみ質から乖離が見られることから、引き続き運營業務受託者と協議・調整を行うことにより、計画処理量の確保や高品質な再資源化の維持を図る。
- ・ごみ処理経費の検証結果を踏まえた料金改定の実施を図るため、原則としてごみ処理施設使用料の改定から4年ごとにごみ処理経費の検証を行う。（今回は令和3年4月）
- ・今後も適正に施設の運転維持管理を継続することにより、市民に信頼される施設運営を目指していく。
- ・引き続き、運転管理部門と連携を密にし情報共有を図り施設の安定稼働に努める。
- ・今回の故障事案に対し、今後の対応ならびに改善策がプラントメーカーから示されたことを受け、職員による工事監理チェックの更なる強化を図る。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)ごみ減量の推進	A	A	A	A	
(2)適正搬入の促進	A	A	A	A	
(3)自律的な施設運営	A	A	A	A	
(4)計画的な施設維持・整備	A	A	A	A	
(5)最終処分場の安定的確保	A	A	A	A	
(6)人材の育成	A	A	A	A	
(7)職員の安全の確保	B	B	B	A	

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
安全衛生委員会の開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			12	12	12	12	
搬入物検査の年間実施回数	回	52	52	52	52	52	52
			45	30	32	36	
受託者連絡会議の年間開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			12	12	12	12	
資格・免許取得	名	6	6	6	6	6	6
			8	15	23	25	
安全衛生職員研修の年間受講回数	回	2	2	2	2	2	2
			2	2	2	2	
労災発生件数	件	0	0	0	0	0	0
			3	1	1	0	

上段は目標値、下段は実績値。

令和5年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和4年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 2. 環境負荷低減と地球温暖化対策の推進
------------	--

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
A	A	A	A	

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・地球温暖化防止対策に寄与するため、豊中市伊丹市クリーンランド地球温暖化対策実行計画を策定し、クリーンランドの取組項目やその目標数値を明確にした。
- ・リサイクルプラザの資源化率は、平成24年度の稼働当初から要求水準で定める50%以上を継続して維持している。
- ・施設照明の全数3,000本を令和4年度から年間1,000本、3カ年計画でLED照明に変更することによりCO2排出量年間80 t 削減することができた。
- ・施設の安定稼働により焼却量1ト当たりの発電量についても前年度同様平均600kwh/トを超えており、安定した高効率発電が維持されている。

課題・今後の方向性

- ・策定した地球温暖化対策実行計画に基づき、着実に取組みを進める。
- ・リサイクルプラザの資源化率については、品質確保に努めており、令和4年度も目標を達成した。令和5年度からも引き続き目標達成を目指していく。
- ・施設照明全数LED化計画2ヶ年目においても1,000本交換することで環境負荷低減を図る。
- ・高効率発電の維持については、ごみ搬入量と焼却炉の稼働状況により大きく影響することから、設備機器の適正な維持管理はもとより、ごみ搬入量の増減にも柔軟な対応ができるよう、ごみピット残量の調整ならびに運転計画の適宜見直しを実施する。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)公害防止に向けた取り組み	A	A	A	A	
(2)環境負荷低減に向けた取り組み	A	A	A	A	

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
リサイクルプラザの資源化率	%	58	58	58	58	58	58
			60.67	60.80	63.23	63.22	
ごみ処理量当たりの発電電力量	kwh/t	590	590	590	590	590	590
			606.3	620.2	617.2	610.56	

上段は目標値、下段は実績値。

令和5年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和4年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 3. 危機管理体制の強化
------------	------------------------------------

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	B	

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・ 豊中市伊丹市クリーンランド危機管理対策会議事務局として適宜、会議を開催した。
- ・ 例年とおり12月に、全職員参加のもと総合防災訓練を実施するとともに、新たな取り組みとして9月の「防災の日」に合わせて、大規模地震を想定したタイムラインを用いた防災訓練を各所属において実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策として、消毒液、職員用のマスク配備した。
- ・ ごみ焼却施設の設計規模やごみの搬入実績に基づき、災害廃棄物を受け入れられる余力の確保について両市と情報共有し、確認を図った。
- ・ 充電式電池が原因とみられる火災が多発していることから、破碎選別残渣搬送コンベヤ火災を想定した消火訓練を実施した。あわせて空気呼吸器の装着訓練も実施した。
- ・ 施設の心臓部である電気関連設備を浸水災害から守るため、止水板、エンジン式発電機、浸水排水用水中ポンプを導入した。

課題・今後の方向性

- ・適宜、豊中市伊丹市クリーンランド危機管理対策会議を開催する。
- ・総合防災訓練とともに、タイムラインを用いた防災訓練を継続して実施する。
- ・災害等発生時における業務継続計画に基づく受け入れ態勢を確保するとともに、両市との情報共有を図り、引き続きごみの減量に取り組む。
- ・火災や災害発生時、速やかに対応できるよう、日頃より訓練を実施する。
- ・地震・風水害等の自然災害により施設の機能停止を回避するため、導入した止水板ならびに電源消失時に使用するエンジン式発電機や浸水排水用水中ポンプを用いた研修や訓練を実施する。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)危機事態への実践力の向上	A	A	A	A	
(2)災害廃棄物対策	B	B	B	B	

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
危機管理訓練・研修	回	1回以上	1	1	1	1	1
			1	2	3	3	
危機管理対応マニュアル 見直し	件	1	1	1	1	1	1
			1	1	1	1	

上段は目標値、下段は実績値。

令和5年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和4年度実施分）

基本方針 施策	②市民に愛され親しまれる学びや交流の場をめざして 1. 環境学習・啓発の推進
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	B	

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・ コロナ禍の中、安全に十分配慮しながら施設見学や市民講座の開催、豊中市、伊丹市との協働による出前講座の実施などの環境学習を通じてごみの減量や分別をはじめとする啓発を行ったが、コロナの影響もあり、例年に比べ来場者の減少などの影響があった。
- ・ クリーンランドひろばを活用し、環境学習に係るメニューを提供する「ひろばイベント」に加え、ステージでの催しやリユースマーケット等も開催する「第1回ジョイントひろば」を実施した。（第2回は雨天で中止）
- ・ SDGsをはじめとする環境問題等に関連した講座を企画・実施するなど、情報発信に努めた。また、剪定枝チップ化事業の認識度向上をめざし、子供向けカードの配布や動画作成を行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、施設見学や市民講座の動画配信など、環境学習事業のデジタル化を進めた。

課題・今後の方向性

- ・ ひろばの有効活用の観点から、ひろばとリサイクルプラザ及びごみ焼却施設を合せた一体的な環境学習メニューを企画・実施することにより、更なる来場者の増加を図る。
- ・ クリーンランドで実施している剪定枝チップ化事業に対する市民の更なる認識度向上をめざし、啓発活動を強化する。
- ・ 引き続き、SDGs等の環境に関連した講座の企画・開催や、動画の配信など、デジタル化に取り組む。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)両市との協働による啓発	B	B	B	B	
(2)環境学習の充実	B	B	B	B	

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市民講座の開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			11	10	9	12	
施設見学者数	人	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
			8,923	4285	6002	7686	
来場者アンケートによる チップ化事業の認知度	%	50	20.00	22.00	24.00	26.00	29.00
			18.00	15.7	14.4	15.9	

上段は目標値、下段は実績値。

令和5年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和4年度実施分）

基本方針 施策	②市民に愛され親しまれる学びや交流の場をめざして 2. 市民に開かれた場や機会の創出
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
A	A	A	A	

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・クリーンランドひろばの令和4年度来園者数は、約4万1,000人となっており、市民の憩いの場として定着している。
- ・遊具の定期点検や芝生の維持管理を行い、クリーンランドひろば全体の適正な管理に努めた。
- ・地元地域住民との良好な関係づくりのため、地元連絡会議を開催（書面開催）し、クリーンランド事業に関する情報提供を行った。
- ・両市のイベントへの出展は、新型コロナウイルス感染症の予防の観点から一部中止となったが、ごみ焼却施設の展望フロア開放デーや施設見学会、市民講座、ひろばイベント、今年度からクリーンランドフェスティバルに代えて開催した「ジョイントひろば」などを通じて、市民との交流を図った。

課題・今後の方向性

- ・引き続き、適宜、適切な情報提供を通じて、地元地域住民との良好な関係づくりを継続する。
- ・再資源・搬入課との連携のもと環境学習にも資するイベント（ジョイントひろば）を継続開催し、クリーンランドひろばのPRに努める。
- ・引き続き、クリーンランドひろばで「ひろばイベント」を開催するとともに、リサイクルプラザとごみ焼却施設を一体的に活用することにより、幅広い環境学習の場となるよう事業内容を検討する。
- ・今年度新たに開始した「ジョイントひろば」について、その内容を拡大・充実させて実施していく。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)市民との信頼関係の構築	A	A	A	A	
(2)緑あふれる憩いと交流の場づくり	A	A	A	A	

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元連絡会議開催回数	回	1	1	1	1	1	1
			2	1	1	1	
展望フロア開放デーの開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			11	9	10	12	
クリーンランドフェスティバルの来場者数	人	1,300	1,300	1,300	1,300		
			1,285	中止	中止		
ジョイントひろば (年2回)	人	(第1回)				1,300	1,300
		1,300				1,980	
		(第2回)				1,300	1,300
		1,300				雨天中止	

※2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の為クリーンランドフェスティバルは中止。
 ※2022年度よりクリーンランドフェスティバルからジョイントひろばに変更。